

第4章 富田林市

富田林市は、南河内郡三町村の西に隣接し、地形の特徴からほぼ三つに区分されます。

まず、南部の石川の南東側、金胎寺山や嶽山のある山地と、佐備川やその支流によって形成された谷部、次に、中央部を南西から北東方向に流れる石川の流域に沿ってみられる平地や段丘、そして、石川の北西側にあたる羽曳野丘陵です。

石川は、富田林市内では川向付近で佐備川と、北大伴付近で千早川と合流し、喜志付近では、梅川および太井川を合わせて北流、柏原市と藤井寺市の境で大和川に合流します。

流域には、川からやや離れたところに段丘が、川のそばでは低地が発達しています。

今回取り上げる遺跡では、尾平遺跡が、富田林市の東部にあたる佐備川と宇奈田川に挟まれた丘陵上の北端に近いところに位置し、喜志遺跡、喜志南遺跡および浮ヶ澤古墳が、市の北端で石川の左岸に位置します。

富田林市の遺跡の分布は、先に述べた段丘上に多く見られ、著名な遺跡である新堂廃寺跡や、現在も多くの人が暮らす富田林寺内町も、石川左岸の段丘上に位置します。